TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム事後報告会を共催しました（2016/11/27）

テーマ： 次世代を担う看護師の能力育成
会場：災害科学国際研究所多目的ホール（仙台市）

2016年11月27日(日)にTOMODACHIイニシアティブが主催し、Johnson & Johnson社が協賛する災害看護研修プログラムの事後報告会を災害科学国際研究所が共催しました。この研修プログラムは岩手・宮城・福島の看護学生が８月に２週間米国を訪問し、災害看護について学ぶとともに、事前、事後の学習や報告会を通して災害看護のあり方、看護師としての成長、米国と日本の交流を促進するものです。

事前セミナーは６月に仙台で開催され、江川新一教授が災害リスク・災害看護に関して講義を行いました。被災地の南三陸町を訪問し、震災から５年経過した被災地が抱える課題について生の声を聴きました。また、7 月に東京でも開催され、東京医科歯科大学の大友康裕教授が災害レジリエンスについて講義し、参加者は被災体験を共有するためのプレゼンテーション能力についても学び、「震災を自分にとってネガティブな感情だけで終わらせたくない。思いを伝えたいし、聞いて欲しい。」という気持ちを高めて米国での研修に臨む気構えを作りました。

８月６日から 20 日まで米国を訪問し、以下のような日程でスタディーツアーを行いました。

８／６	ニューヨーク到着
８／７	ニューヨーク見学
８／８	Goldman Sachs 訪問、９・１１Tribute Center 訪問、９・１１Memorial and Museum 見学、ニューヨーク日本協会によるレセプション
８／９	ニューヨーク大学 Langone Medical Center 訪問、同大看護大学訪問
８／１０	国際連合見学、Mount Sinai Hospital 訪問
８／１１	ニュージャージー海岸見学
８／１２	Rutgers 看護大学訪問、Johnson & Johnson 本社訪問、ワシントンに移動
８／１３	航空宇宙博物館、自然博物館、アメリカ歴史博物館、国立動物園見学
８／１４	ホワイトハウス、マーティン・ルーサー・キング博物館、リンカーン記念館見学
８／１５	国立小児病院訪問
８／１６	アメリカ赤十字見学、米国緊急事態管理庁見学
８／１７	米国軍保健衛生大学センター見学
８／１８	バージニア州 Task Force1 緊急捜索隊訪問、国立衛生穂研究所訪問
８／１９	国立小児病院にてプレゼンテーション・ワークショップ、レセプション
８／２０	帰国　（８／２１　日本到着）

帰国後には、研修で得られたことをどのように活かすことができるかについて、さまざまな取り組みがなされました。9 月には仙台医療センター附属仙台看護助産学校にて事後セミナーが開催され、米国で見てきたものを元に自らが考案したアクティビティをそれぞれ様々なロケーションや現場で実行し、11 月の最終報告会で発表することを前提としてアイディアと具体的な計画を出し合いました。参加者はそれぞれ独自にワークショップを開催したり、災害対策委員会を立ち上げたり、仮設住宅を訪問したりするアクティビティを行い、11 月に再度事後セミナーを開催して、プレゼンテーションのノウハウや、どのように伝えるのかについて学びました。

被災体験を人に伝えることの重要性についても、自ら語ることで、自らの心のケアになるという体験を９・１１の被災者から伝えられたことで再認識することもできたそうです。

仙台での最終報告会は、１ 年間のプログラム概要、参加学生による個人発表、メンターによる成果報告があり、質疑応答やコメントによる討論とともに、すべての参加者による懇親会が行われました。同じ研修をしても、一人一人感じたこと、得たものは異なり、さまざまな視点について看護師あるいは被災地の人間としてどのように社会に還元できるかを発表する看護学生たちの姿は心打たれるものがあります。

江川新一教授は閉会の挨拶で、東日本大震災の被災地で学ぶ看護学生が、災害に対する知識や能力を得るだけではなく、米国と日本の橋渡しである TOMODACHI イニシアティブを通してグローバルな視点をもち、看護という職業を通してこころとからだの健康を通して被災地の健康を守り、次世代をになう医療人としてきく育っていくことへの大きな期待を述べました。災害医療は、ややもすると、救急医療とのみとらえられがちですが、看護学生たちが学んできたことは、普段からの健康の維持、災害時に特殊な支援を要する方々、医療従事者の自らのこころとからだの安全・健康を図ること、発災・対応・復旧・復興・備えという災害サイクルのなかですべての段階で看護師が関わらなくてはならないこと、日米の保健医療制度の違い、災害に対する自分の考えを表出することの意味など、多岐にわたります。災害に強い社会をつくるために大きな役割を果たしてくれるものと信じます。

２週間のアメリカ研修と事前事後の学習やアクティビティについて報告する看護学生たち

米日カウンシル代表からの挨拶

協賛のジョンソン・エンド・ジョンソン社からの挨拶

学生の成長について報告する宮城のメンター

福島のメンター

岩手のメンター

事後報告会を終えて記念撮影

懇親会につづき、TOMODACHI アルムナイについて説明をうける参加学生

文責：江川新一（災害医学研究部門）